

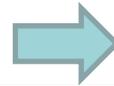
利用・用途・応用分野

肝細胞癌疾病の予測診断、肝癌に対する新規腫瘍マーカー

目的・課題

血清中のHMMタンパク質は、  
新規HLH型転写制御分子で  
あり、肝臓特異的な遺伝子発現  
を調節していることが考えられ  
ているが肝癌のスクリーニング  
になるかは不明である。  
肝癌との関わりを明確にする。

解決ポイント

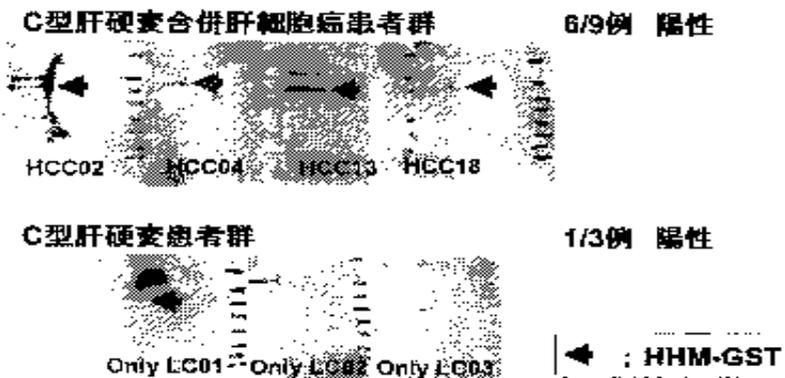


C型肝炎硬変合併肝細胞癌患者群とC型肝炎硬  
変患者群との間で、抗HMM IgG抗体の陽  
性率を検査した。血清中の抗HMM IgG抗体  
の陽性率は、C型肝炎硬変合併肝細胞癌患者  
群は9例中6例が陽性という高い値を示し、  
肝癌もマーカーになる。  
なお、C型肝炎硬変患者群では3例中1例という  
低い値であった。

研究概要・アピールポイント

血清中の抗HMM IgG抗体は濃度測定で、肝癌のスクリーニング及び進行度の  
マーカーとして利用可能。

抗HMM IgG抗体 陽性率



GST:今回用いた標識蛋白

C型肝炎硬変合併肝細胞癌患者群で(血清中)抗HMM IgG抗体が高率に存在する。

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp